

榎津

〔夫木和歌抄二十六〕えなづ 攝津

〔松葉名所和歌集十〕得名津 攝津

〔書言字考節用集二〕乾坤 朴津又作榎津、攝津州住吉郡

〔倭名類聚抄六〕國郡 攝津國住吉郡榎津以奈豆

〔攝陽群談六〕朴津

住吉郡住吉ニ屬ス

〔堺鑑中〕古跡 朴津郷

此所ハ北、橋東ノ野邊也ト云傳リ、又天神記錄ニハ、北莊住吉郡朴津郷トアリ、

〔萬葉集三〕雜歌 高市連黑人歌一首

墨吉乃得名津爾立而見渡者、六兒乃泊從、出流船人、

〔攝陽群談六〕津 四八津

方角未考、藻鹽攝津國ニ比ス、

〔攝津志〕山川 住吉浦住吉村、或曰住吉濱、曰兒濱、或作阿胡、又曰出見濱、或作都見、又曰榎津、曰磯齒津、有古歌、

〔日本書紀十四〕雄略 十四年正月、是月爲吳客道通磯齒津路、名吳坂、

〔萬葉集三〕雜歌 高市連黑人羈旅歌

四極山打越見者、笠縫之島榜隱、棚無小舟、

〔萬葉集略解三〕上 卷六難波宮幸の時、千沼回より雨ぞ降くる、四八津のあまとよめり、此ちぬは

和泉にして、玄はつは攝津也、中 此玄はつの坂路を越て見やらる、海に笠縫の島といふ有

しなるべし、

〔萬葉集六〕春三月 太平六年 幸于難波宮之時歌六首、中

磯齒津